

企業規模別の従業員数判断BSIと不明回答の影響

要旨

2026年4～6月期法人企業景気予測調査の6月末判断を再計算した。全産業の従業員数判断BSIは中堅企業34.5、大企業25.7、中小企業27.6ポイント。不明回答を除く参考計算でも、中堅企業の値が最大となる。

資料の選択と定義

使用資料は財務省・内閣府「法人企業景気予測調査」のBSI項目編。「4-1 従業員数判断BSI：総括表」の全産業を対象とする。BSIは期末時点の「不足気味」から「過剰気味」を引いた社数構成比の差で、単位は%ポイント。全国結果は母集団推計値を用いる。

候補資料の日銀短観は、サイト掲載物の商用転載・複製に事前相談の条件があるため、この公開用分析には使用しない。代替統計は同じ企業規模別の不足判断を扱うが、調査対象、企業規模区分、質問、指数の符号が異なる。短観の分析結果と称さない。

原表抽出と計算

全産業の今回調査値はExcel「4-1」の10・12・14・16・18行、F・J・N列から不足・適正・過剰・不明・BSIを抽出する。奇数行の前回調査値とは区別する。6月末の今回判断と9月・12月の見通しを別項目として保存する。

不足割合p、過剰割合e、不明割合uに対し、再計算BSIは $p-e$ 。不明を除く参考BSIは $100 \times (p-e)/(100-u)$ 。四つの回答割合の合計は丸めにより100%からずれることを許容し、許容幅0.15ポイント以内で確認する。

結果

大企業の不足割合27.2%、過剰割合1.5%から25.7ポイント。中堅企業は $37.4-2.9=34.5$ 、中小企業は $31.5-3.9=27.6$ 。全区分で原表のBSIと一致した。中堅企業と大企業の差は8.8ポイント。

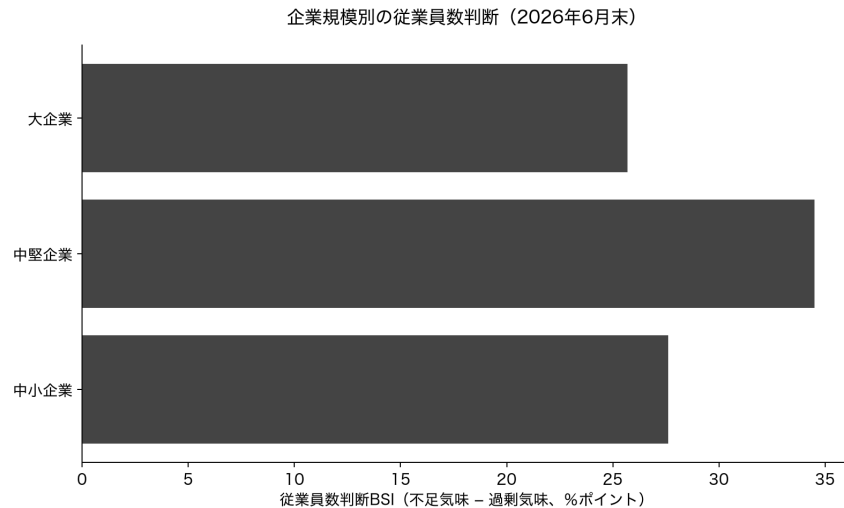
不明割合は大企業4.8%、中堅企業3.8%、中小企業3.7%。不明を除く参考計算は26.9958、35.8628、28.6604ポイントで、順位は変わらない。これは回答母数を変更した感度分析であり、公式BSIの修正ではない。

判断の構成比と参考計算

analysis_table.csvから今回6月末判断の全区分を掲載。不足・過剰・不明は%、BSIと不明除外BSIは%ポイント。

企業規模	不足気味	過剰気味	不明	公表BSI	不明除外BSI
大企業	27.2	1.5	4.8	25.7	27.0
中堅企業	37.4	2.9	3.8	34.5	35.9
中小企業	31.5	3.9	3.7	27.6	28.7

不明除外BSIは小数第1位に丸めて表示した。計算そのものは丸め前の結果を保存している。不足気味の回答割合が最大の中堅企業は、過剰気味を差し引いても最大であることを確認できる。



2026年6月末の企業規模別従業員数判断BSI

図は今回の公表BSIのみを使用する。前回調査値、9月・12月の見通し、不明除外後の参考値は混在させていない。

限界

集計された社数構成比から不足人数は求められない。不明を除けば偏りがなくなるとは限らず、不明企業の状況は分からない。企業規模ごとの業種構成が異なるため、規模自体が不足感を生むという因果解釈はしない。見通しは予測実績ではない。

公開されている3区分のみで回帰・機械学習・有意差検定は行わない。企業個票と標本設計情報がないため、不確実性を回答数だけで再構成しない。

企業データへの適用

部門ごとの不足・適正・過剰・不明を記録し、回答率、欠員人数、残業、採用日数を併記する。欠員人数の算定には配置基準や必要工数が別途必要になる。主観的な回答指数と、実人数の計画を混同しない。

再現・出典・利用条件

analyze.pyで抽出と図を生成し、verify.pyで原表を別経路で照合する。sources.jsonに取得日時・原本SHA-256を記録。

法人企業景気予測調査・結果一覧／令和8年4～6月期BSI原表を加工して作成。財務省の利用条件は公共データ利用規約第1.0版に基づく。査読論文ではなく、公表集計値の検証報告。